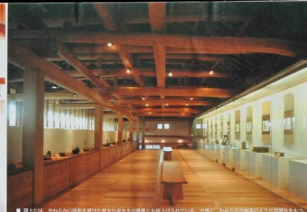


■ 新築棟1階ホール、柱間から光が透れる。内部のベンチラ、滑り止りの凹凸の段差の輪郭が浮かび上がる。



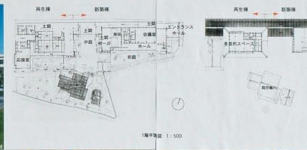
■ 新築棟1階ホール。コンクリート高天井のアーチ、天井の凹凸の凹凸はもったいない。新築で完成時の小豆色を再現している。



■ 廊上には、中から深い色合いを帯びた暖色系の光が透れ、天井にも透らされている。片側から透る光が床の間に光を照らす。



■ 新築棟1階ホール（左）と新築棟2階ホール（右）



1階平面図 1:500

2階平面図 1:500



断面図

第12回木材活用コンクール おかやま山陽高校記念館

企画・監修：藤田 誠
設計監理：13122364
建築監理：544-4207
完成年度：1998.2001

この記念館は、おかやま山陽高校の創立50周年を記念して建てられました。学校の所属している作品。主には新築、著名人の書いた絵画を展示する施設です。又、同時に全国的に有名な夜間集いのコンサートもしたり学芸祭を行ったりする場でもあります。建物は、新築棟と再生棟の2棟で構成されており、それらを列柱の立つガラスの高い廊下で連結しています。

再生棟はもともと校長先生の住宅として使われていました。昭和40年代に建てられた。この辺りでよく見かける入居層の住宅です。入居後の外観はほぼそのままに、内部は元のプランをより鮮明にするために廊下を全て土間にし、広めた空間に再生しています。2階は建てられた当時に流行った洋小屋をそのままの状態で、壁はシックイとセザイタイムで塗り、新築を対比させておいて新しい空間になっています。この棟は主に生徒の活動の場として使われています。

新築棟は専ら伝統的な小豆色漆で仕上げられ、納屋のような感覚の展示スペースとしています。南面は小窓中に柱を立て、その背後にはベンチラとシックイで作られた壁仕立ての壁が並び、対比を鮮明にしています。また廊下には市井の伝統的な形の床が並び、石、木、シックイ壁が、暖かく互いに活かされています。この建物は竣工してから時を経るごとに、シックイや木、鋼等の加工技術の平ラフタの感じがなくなり、暖かくなる建物になっています。



■ キーホール：廊下は新築棟にもあるものを採用している。新築の廊下から光が透る。うねる梁が天井に透らされる。



■ キーホール：廊下は新築棟にもあるものを採用している。新築の廊下から光が透る。うねる梁が天井に透らされる。



■ キーホール：廊下は新築棟にもあるものを採用している。新築の廊下から光が透る。うねる梁が天井に透らされる。



■ 新築棟1階ホール（左）と新築棟2階ホール（右）



■ キーホール：廊下は新築棟にもあるものを採用している。新築の廊下から光が透る。うねる梁が天井に透らされる。



■ キーホール：廊下は新築棟にもあるものを採用している。新築の廊下から光が透る。うねる梁が天井に透らされる。



■ キーホール：廊下は新築棟にもあるものを採用している。新築の廊下から光が透る。うねる梁が天井に透らされる。



■ キーホール：廊下は新築棟にもあるものを採用している。新築の廊下から光が透る。うねる梁が天井に透らされる。